

IV

小学部の実践

経験を大切にした指導

1 小学部の取り組み

小学部では、教育の重点として「遊びや学習に楽しく取り組む」ことを掲げている。楽しく取り組むためには、遊びや学習のしかたがわかって、自分からすすんでできることが大切である。言いかえると、子供達にとって楽しい時は心豊かな時であり、楽しく取り組むとは、自分からすすんですることで、これは、たくましい行動である。遊びや学習に楽しく取り組ませることを通して「豊かな心を持ち、たくましい行動をする子」を育てたいと考え、以下2つの観点からこのテーマにせまることにした。

第一の観点は、「経験を大切にする」ということである。小学部の段階では能力は経験することによって身につくことが多いと考えられる。だから、どのような経験を、どのように与えるかが課題となってくる。子供は、何回でも昔話を聞く。知っている（経験）から何回聞いても楽しいのである。この特性を生かして学習を構成し、遊びや学習の喜びと意欲をおこさせたいと考えたのである。そこで、学習をくり返し与えることにした。単なる技能が身につく反復練習だけでなく、くり返すことによって喜びと意欲が盛り上がることを目指す。学習がくり返されると子供達は学習内容がわかり、また少しずつわかりだし、そして、学習に見通しが立てられるので、「豊かな心、たくましい行動」を育てることにつながると考える。

第二の観点は、合同学習である。これは、学級を解いて小学部合同の学習を展開する試みである。年令・生活・経験等さまざまな子供の集合になる。養護学校の小さな学級だけの教育だけでなく、大きな子が小さな子に働きかけるもの、大きな集団が個に働きかけるもの等、学級とは違った豊かな経験をつむことができる。この経験は、大きい子は大きい子なりに、小さい子は小さい子なりに、それぞれが互いに刺激し合って心や行動を成長させるものと考えられる。

以上、2つの観点から主題にせまることにした。

合同学習は、障害が重度化するにつれ、個々の取り扱いのむずかしさ、教室のみならず、どこでも出歩く子供など入学して来て、どこからでも、だれでもが的確な指導をする必要になった。全教官が担任としての目で、どの子供にも当たらなくてはならないのである。その意味において、指導体制の確立を図るものである。

合同学習に取り上げた題材は、今のところ行事单元だけである。すなわち、炊飯遠足に始まって、学習発表会・クリスマス発表会・ゲーム大会・六年生を送る会と行事单元が続いている。これらの行事单元を取り上げた観点として

- 全学級が生活单元に取り上げている。
- 行事に向かう過程が重視され、行事が終末におかれている。
- それぞれの子供の能力に応じて取り組み、満足できる場がある。
- 子供の発想が生かせる行事である。

以上、4点を考えて取り上げることにした。

2 実践例

(1) 取り組みについて

炊飯遠足は、小学部全員が校外で炊飯を楽しむ学習で、毎年行なわれている行事である。行事までには、炊飯のための学習として、さら配り、皮むき、野菜切り、食器洗い等の学習に取り組む必要があり、仕事の内容は、低・中・高学年が発達段階に応じて分担して取り組めるものである。そのため炊飯は学級単位ではなく、小学部合同学習として取り組むことにした。仕事の能率、個人の仕事を考え、等質の2グループにして取り組んだ。以上の点から、炊飯遠足は、合同学習における経験を大切にしたい指導を目指す小学部の取り組みには適した单元である。今回、第一回目ということもあり、合同学習をするに当って、まだクラスを重視した学習を中心に進めてみた。

※実践例の A・B・C について

A—低学年 B—中学年 C—高学年

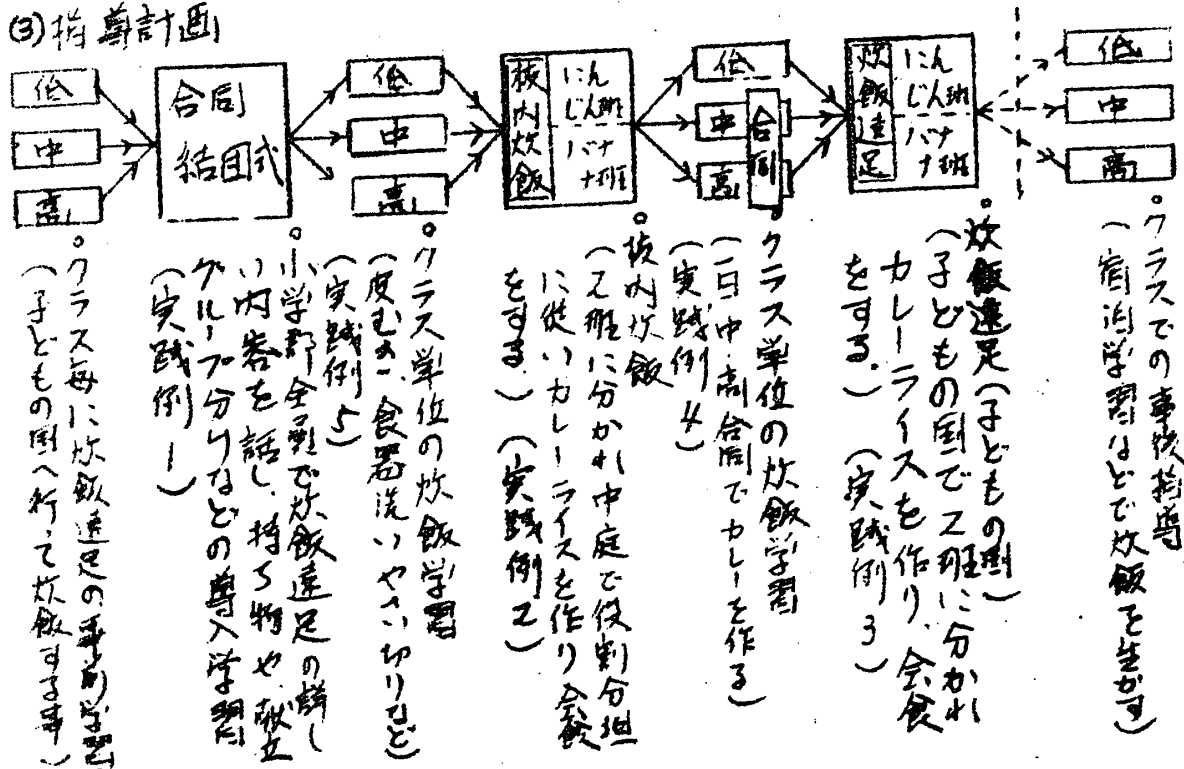
(2) 目標、

先生や友だちとそれぞれ合いながら意欲的に学習発表会の準備や練習にとりくもうとする。

友だちと協力あって後かたづけなどを自分で行うようにする。

炊飯遠足を身、心共に持ち、楽しく参加する。

(3) 指導計画



④ 合同学習のとりくみ (実践例1)

初めての合同学習の試みとして、「炊飯遠足」の単位にとりくむことになった。教師側の事前の話し合いで、学級での学習を中心にしながら、まず導入段階と校内炊飯学習を合同で行うことが計画された。そして各クラスを2つに分けて、たてわりグループを2つ作り、カレー作りの作業をそれぞれの班で行うことにした。

⑤ 導入学習

学 習 内 容	指導上の意図・留意点	児 童 の 反 応	時間
1. 炊飯遠足の話を聞く。	・ 遠足に興味を持つように楽しそうに話をしたい。	・ もうすでに知っている子もあり、高学年を中心に興味をもったようだ。	5/5
2. 遠足の詳しい内容を知る。 ・ 日時 ・ 場所 等	・ 春、みんなが楽しく遊んだ「子どもの国」で遠足することを知らせ、期待感を盛り上げる。	・ じは、「コドモ、フニ」と口に出し遠足することを楽しみにしている様子がかがえた。 ・ 高学年の何人かはかなり詳しく知っていて進んで発言しようとしていた。	10/15
3. 持ち物について話し合う。	・ お弁当を持って行かないわけを説明し、自分達で食事作りをしなければならないことに気づかせたい。	・ 低・中学年も何度が遠足の経験があるので、進んで持ち物の名札を発表していた。 ・ 高学年から「作ろう!」という発言が出た。 (C7は「カレーを作って食べよう」と発言)	10/25
4. 献立を決める。	・ 作った経験のあるもの、自分たちで作れそうなものを考えて発表させた。	・ いくつかあったが、クラスに人気が集まり、教師も意図していたこともあって比較的にスムーズに決まった。	5/30

5. 材料や用具について話し合う。	・できるだけ低・中学年に発表させ、自分達も参加する意欲を持たせたい。	・ A ₆ , A ₆ , B ₁ , B ₅ など教師に助けられながらも積極的に発言していた。	10/40
6. 最後に学級でする仕事を確認して終わる。	・ 学級で仕事や準備の話し合いをする約束をし、がんばろうという気持ちをもつ。	・ 自分達でがんばろうという気持ちは盛り上がっていた。	5/45

初めての合同導入学習の時間で「どんな話かな？なんだろう」と思い思いの顔で集まってきた子ども達。「炊飯遠足」と聞いただけではピンとこない子もいっぱいだった。それでも高学年や先生の話を聞いているうちに「小学部のみんなで何かするんだな」とボンヤリ感じとったようだった。

前時に炊飯遠足の話を学級で聞いていた高学年の何人かは、はっぴりと炊飯遠足のことを意識したようだった。中学年の子ども達は「カレーライス」と聞いた時から目の輝きが違ってきた。学級でカレーライス作りが経験されつつあったせいであろう。

「カレーライスを作って食べよう。」ということが、まず子ども達の意欲をかきたてた。大好きなカレーライスを自分達みんなで作るんだということが学習を進めていく大きな力となった。何が起きているのか、何をしたらいいのか、よくわからない子も、小学部全員の雰囲気の中にのみこまれた。やはり、合同で導入学習を行うことの大切さを痛感した。

導入学習した反省として次のようなことがあげられる。

「お弁当を持って行ったらいいん！」と強調すれば「作ろう！」という気持ちをもっと高めていくのに効果的だったように思う。又、学習中、下先生が子ども達に混じって「ハイ！ハイ！」と、手を上げて元気よく返事をされたりすることがまわりの子ども達の気持ちをひきだしているのを見て、教師も子どもと一体となり、共に学習を作り上げていく一員でなくてはならないと強く感じた。そのことにより、学習の雰囲気がぐっと高まることになるのである。

ともあれ、第一回目の合同学習は、学級毎に仕事の分担や準備を進めていくことを約束して、次回へつないでいくこととした。

① 中・高学年合同学習 (実践事例4)

小学部全体で校内炊飯をする前に、中学年・高学年のクラスでは実際の作業を経験させる学習を組んでいた。(野菜を切って煮る。)各クラスとも、一度、カレーライスを食べるところまでを教師の援助でやってみようということにした。学習時間帯も同じということもあって、クラス単位ではあるが同じ場所でやってみようということになり、ミニ合同学習が展開された。

中学年の活動	高学年の活動	児童の反応
<ul style="list-style-type: none"> 野菜の皮むき 	<ul style="list-style-type: none"> 役割の確認 材料・用具の準備 野菜の皮むき 	<ul style="list-style-type: none"> 高学年は まだ作業に慣れていないせいか、友だち任せのところや意欲のないところが時々見られた。
↓	↓	<ul style="list-style-type: none"> 野菜を切る段階で、中学年に「野菜を切りたい。」という意欲を持った子ができ少しとくんだ。
↓	↓	<ul style="list-style-type: none"> 中学年との作り比べのような形で、別々の鍋で煮たカレーをお互いに食べ合ったりして「ああ、おいしい」と会話をかわした。このことでぐっとがんばった喜びがわきあがった。
↓	↓	<ul style="list-style-type: none"> 中学年もがんばっている、高学年もがんばろうという気持ちをもった。
<ul style="list-style-type: none"> 野菜を煮る 	<ul style="list-style-type: none"> 野菜を煮る 	<ul style="list-style-type: none"> 高学年が片づけをしているのを見て 中学年も意欲を持ち、皿洗いをしたりするなど、いつもよりがんばる態度を見せた。
<ul style="list-style-type: none"> 食事の準備をする。 食器の用意 スプーン、コップ 	<ul style="list-style-type: none"> 配膳をする。 	
↓	↓	
<ul style="list-style-type: none"> 食事をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 皿洗い 用具の片づけ なべ、かまなど そうじ 	
↓	↓	
<ul style="list-style-type: none"> 片づけをする スプーン、コップ 洗い 皿洗い 		

この学習により、子どもたちには自分のやる作業、役割がだんだんとはっきりしてきた。しかも、他クラスの子どもの活動を見ることにより、互いに刺激を受けたようだった。

- ・ あんなことをしてみたい、これもやりたいという気持ちの芽生え
- ・ こんなふうになければ、なるほどこうするのだ、
- ・ 中学年もがんばっている、自分もがんばらなくては...
- ・ もっとおいしいカレーを作って食べよう。
- ・ じょうずになりたい。
- ・ 家でも練習しよう。 など

又、これらの学習の合間には、低学年が、宿習学習の夕食のカレーライス作りで、先生達に混じって皮むきの作業を手伝ったこと、ランチマットの制作にがんばっていることなど刻々と他のクラスの状況が報告された。

ミニ合同学習によって子どもの反応がつかめ、学習方法等の様子が見え、これからの合同学習を進める上での手がかりをつかんだ気がした。これをもとにして小学部全体の合同学習で校内炊飯を行うことにした。

⑦ 校内炊飯

(実践事例2)

砂立子どもの園での炊飯意欲に先がけて校内炊飯を行った。これは、一度カレーライス作りの手順を押えるためである。各学級で、たとえば、低学年は野菜洗い、中学年は皮むき、高学年は野菜切りと、作業内容を分けて日々練習している内容をつなぎ合わせ、カレー作りの作業の流れとして子ども達にとらえさせたいと考えたからである。この際、前に述べたように、小学部の子どもと教師が2班(たてわりの班)にわかれて、それぞれ同じ作業を並行してとりくむことにした。

そこで、各クラスを寄質の2グループに分けたものを合わせて作った班の結団式をこの時間の初めに行った。この時、子ども達の中から「バナナ」「にんじん」の班の名まえがでてきてそれに決定した。

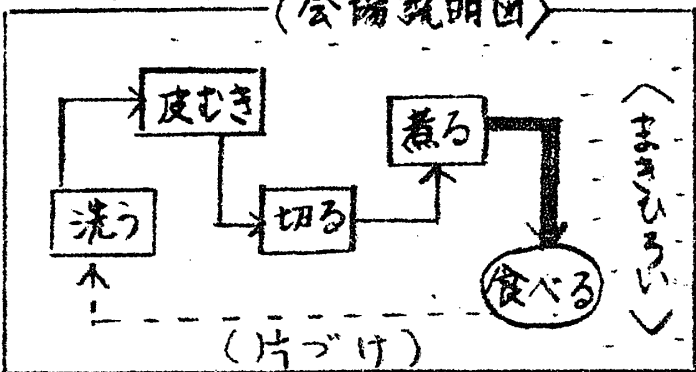
以後、班にはいつも名まえがつくようになった。

α. 日程と役割分担

日程	役割	低学年	中学年	高学年	目だった児童の反応
結団式		2班にわかれて話をきく			・ 2班に分け結団式を行ったがそのことより、これからカレーを作るんだということで意欲が高まっていた。
食事の準備		・ まきひろい	・ 野菜の皮むき ↑ ・ 野菜を洗う ・ 食器の準備	・ 用具・材料の準備 ・ 米洗い 飯合の準備 ・ 野菜を切る	<p>④…指示に従ってがんばって作業した。</p> <p>⑤…皮むきをとてよくがんばり野菜切りにも興味を示した。</p> <p>⑥…中学年と共に皮むき・野菜洗いに意欲を示した。 (A₂, A₃, A₆)</p>
		2班に分けて野菜をなべに入れて煮る			⑦…野菜の切り方に慣れてきて黙々と作業にとりくめた。 (C ₁ , C ₈ も含めて)
		・ ランセットをく	・ お皿を配る	・ 用具の片づけ ・ 加粉を入れる ・ 盛りつけ	<p>⑧…粉をなべに入れようとした。 (C₃)</p> <p>⑨…援助されながら盛りつけよくがんばった。(C₆, C₇)</p> <p>⑩…配せんをほりきでぬた。</p>
		2班に分けて敷物をく			⑪…配せんをほりきでぬた。
食事		2班にわかれてカレーライスを食べる			・ 同じ場所だったせいもあり、早くなごやかに食事ができた。
片づけ		・ 自分の食器を洗ふ。	・ 皿を洗う ・ スポンジを洗う。	・ なべ、飯合を洗う。	<p>⑫…意欲的に皿洗いにとりくみよくがんばった。</p> <p>⑬…指示・援助されてだが後始末もよく働いていた。</p>
反省					・ 本番までにもっとがんばることを話し合い、解散した。

ロ、校内炊飯の反省と本番への手だて

全員参加の初めてのカレー作りをして、子どもの役割分担とともに教師側の役割分担もしていたのだが、ややもすると全体に目が行き届かず、特に、集団からはみ出す子ども



への手だてが不十分ではないかとの反省が出された。又、学級を主体とした役割分担をしていたために、その仕事に向かない子もでき、参加場面が少ないといった現象も見られた。

以上のことから、C₃、G₅のように参加の少ない児童を低学年といっしょにまきひろいの作業にまわした。そして、みんなのそばにいれば、その作業をしていなくても参加とみなし無理じいはしないということを本番に向けて確認していった。

又、A₂、A₃、A₆のように意欲的な児童は、皮むき等の作業にも参加させたりして、役割分担にこだわらず意欲を大切にしていこうとも話し合った。

早くからたてわりグループの構想はあったが、結果として、この時初めての班別活動だったのと、作業が学級単位だったのとで、あまり班意識が生まれていないため、当日までに「にんじん」「バナナ」のゼッケンを子どもたちといっしょに作成し、炊飯当日、胸につけることにした。

① 鳥取砂丘 子どもの国 炊飯満足 (実践例 3)

日	準備	学校	会場	開始	食事	食事	片づけ	終了	現地
程	準備	出発	設営	式	準備			式	出発
時刻	8:30	9:15	9:30	10:00	10:30	12:00	1:00	1:30	1:45

※ 上記のような日程で行うこととし、役割分担・作業手順は校内炊飯の際に決定したものと同時に反省点のみ変更した。

炊飯満足では、事前に校内炊飯を行っていたことで、子ども達の側にも作業の見通しができ、教師側も子ども達の活動や反応のしかたの予想が付き、ややゆとりをもってとりくめたのではないかと思う。

いろいろな子どもとふれ合ううちに、少しずつ他のクラスの子ともがわかりあし、担任でなくても指示や言葉かけが適切にできるようになってきた。

又、当日までのクラスでの繰り返しの学習により練習効果があがり、それぞれの子どもがとりくんでいる作業技能に向上が見られた。

子ども達は何回か作業を経験するうちに自信をつけ、今までやろうとしなかったことまで自分から進んで手を出していったり、指示されても抵抗なくとりくめたりすることもあり、驚かされることが多かった。

炊飯満足当日の思いもかけないほどいろいろな活動をしている子ども達を見て、あれはできない、これはできないと先入観をもってしまっただけなのではないかと痛感させられた。

食事場面も最高に盛り上がり、互いの班のなべのカレーを食べ合ったりして「おいしい！」と認め合うことで、より満足感が強められたのではないかと思う。

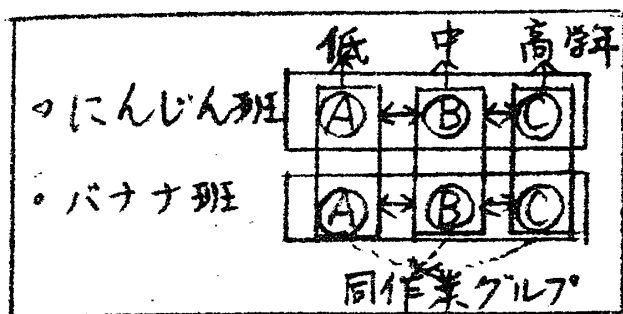
残念だったのは、せっかく低学年が制作してきたランゲマットやたきぎ班でのとりくみを認める場面が少なかったことである。（特に全体の場において）やはり、学習の成果を認めることが次の学習への大きな力になることを思えばもっと配慮すべきであった。

あまり時間がとれず急々であったが、終了式に一人ずつがんばり賞が手わたされ、たくさんの子が家庭に帰ってまっ先に報告したことがわかった。もっと終了式に時間配分を多くして一人ずつのとりくみを認めほめる時間があれば、初の合同学習のしめくくりとしてより効果的に次の学習への意欲につなげていけたのではと残念であった。

④ 炊飯合同学習のまとめ

以上、炊飯合同学習について述べたが、合同学習が中・高学年

の実践を含めても4回であり、少なすぎるのではないかという意見もあされた。しかし、初めての合同学習の試みとしては、学級学習とのかかわりから見ても適当であった。



又、班意識が生まれない育たないという反省が度々出されていたが、それぞれのグループが学級を2つに分けた左図のような班編成であり、同じ場所と同じ作業をするという学習形態であったので当

然ともいえる結果ではなかったかと思われる。

それよりもむしろ、学級の枠をこえた作業、たとえば野菜の皮むき、野菜切りなどで、違うクラスの子とも達とのふれあいの場が多くなり刺激と影響を受け、相互に成長していく姿が見られたことが大切なことだと思われる。

又、教師側も、学級だけでなく学部全体の子どもたちに目を向けていく契機となったため、合同学習の意義は大きいと考えている。

⑤. クラス単位での取り組み — 中学年の実践例 — (実践事例5)

⑦. 中学年における取り組みのねらいと指導の重点

中学年では、クラスでの取り組みを (1). 合同学習へ向けて心を高めたり、予備体験によるあたためをする場、(2). 家庭との連携をはかりながら、個に応じた内容や手だてをさぐりながら練習にとり組ませ、合同学習に向けての技能の向上と、自信・意欲を持たせる場、(3). 合同学習で得た体験を次の生活へ発展させる場としてとらえ実践した。

指導に当っては、合同学習で盛り上がった意欲を支えにしながらも、実態から考えて、1時間/時間の取り組みは、(1). 具体的直接的体験によって強い印象を持たせる(食べる、見る、作る、比べる…), (2). 具体場面の設定により、強い必要感や緊迫感を持たせる(できたら食べよう、良かったら食べられる…) (3). より強い喜びや満足感を持たせる(大きさにほめる、点数化する、食べさせる、抱く…)などを重点にして、意欲を持って、楽しく、少しでも集中して、ねばり強く取り組んでいく姿をめざしていった。

① 児童の実態 (IQは鈴木ビネーによる)

57.9.

	IQ	特 性	調理に関する経験・興味
B ₁ 女	5年 (49)	・楽しい事はよくわかり、期待感を持つ ・主体的取り組み、ねばり強さに欠ける。	・調理に強い関心があるが家で経験なし ・学校でするのが初体験で自信がない。
B ₂ 男 (未検)	5年	・彼なりの表現で目的に向かって意欲的。 ・意欲は持たすがすぐあきらめ投げ出す。	・作っているのを見たり、待っているのが好き ・食べる事に関する学習は喜びな/段どうよう
B ₃ 男 (45)	4年	・経験をよく覚えていて、行事などに意欲的。 ・やや自発的で意欲・喜びの表現が全しい。	・大きくなったらコックになるといふほど好き ・包丁など上手に使う。キャンプ経験あり。
B ₄ 女 (未検)	3年	・水いじり等、限られたものだが興味を持つ ・興味の無い事には拒否、逃避する。	・家では台所道具で“ままご”とをやる。 ・水をいじるは事なら少し参加する。
B ₅ 女 〃	〃	・楽しい事はよくわかり、強い期待感を持つ ・経験から見通しをよくつけるが気分にあうがある	・宿泊学習でもいつも何かを作りたい ・台所仕事などよくお手伝いをしている。
B ₆ 女 〃	〃	・くねるうちにだんだん意欲がもり上がる ・ダウン症、援助指示される事が嫌い、あやしい	・ねばねばしたり手が汚れる事は嫌い ・皿、ボウルなど洗い物は好き。

全般的に、意欲的で、すぐ取り組もうとするが、依存的で、見通しを持って取り組んだり、集中力・持続力に欠ける。調理には全員関心があり、宿泊学習でも少しずつお手伝いが増えてきたが、技能的にはまだまだ初歩の段階という実態のクラスである。

⑦. 経験を大切にしたい指導計画

おもしろそうだ、やりたい、こんな事もしたいなど 次を見通す鋭い感覚を育てるためには、前の単元(生活)での子どもの心を大切にしながら経験を広げたり 深めたりするくり返しを大切にしたい指導計画を立てる必要がある。その事をふまえて、次のような炊飯学習へ向けての指導計画を立てた。

	月	単元(経験)	調理に関する新しい経験	B5児の心の動き
事前の経験	5	お母さんの仕事	・ 配膳、片づけの手伝い ・ クッキーで「お母さんの顔」を作る。	・ 宿泊の時もお手伝いしようね。
	6	↓ 宿泊学習Ⅰ	・ ランチマットを作って、配膳、片づけの手伝い ・ 夕食作りの見学	・ わたしたちも何か作りたいなあ。
	7	↓ 宿泊学習Ⅱ	・ カレーライスの材料しらべ、カレー作り見学 ・ お皿洗いのお手伝い	・ カレーが作りたいな。
	8	(お盆)	・ (おだんごを作るお手伝い)	・ だんごが作れたよ。
	9	↓ 宿泊学習Ⅲ	・ おだんご作り、道具のあとしまつ。 ・ ガス、熱湯への注意	・ だんごはもう作れる ・ カレーも作れそうだ。
10月				
子どもの国でカレーを作ろう(炊飯遠足)	あたりおし	・ カレー作りの手伝い(2)(学校・家)	・ 見ていたり、参加しながら、カレー作りを一通り体験する。(学校、家) ・ 食べる、おいしいとほめられる。	・ カレーづくりがよもしろな ・ おいしかった ・ 子どもの国もカレーがい
	事前の取り組み	合同学習(1)	・ 炊飯遠足でカレーを作る事に決定 ・ 中学年の分組(洗う、皮をむく、皿の準備)決定	・ がんばろうで ・ できるかな、むづかしい
		・ 洗う、皮をむく練習(3)	・ いも、にんじん、玉ねぎを洗う、皮をむく ・ 先生のまねをして 切ってみる。	・ じょうずになってほめられた ・ 切るのもなつたよ
		・ 皿を揃える練習(3)	・ 人数に合わせて皿、スプーンを並べる ・ 皿、スプーンを教えたり、まとめておく	・ ちゃんと困るで ・ 教えられようになつたよ。
		合同学習(3)	・ 校地内で炊飯の事前練習をする。	・ じが足りなくて困ったな ・ 皮はよくむけた。切れたよ。
		・ 皿を準備しておく(1)	・ 班別に、人数に合わせて、皿やスプーンを並べる ・ 皿やスプーンを教え、まとめて高学年に渡す。	・ ちゃんと合っていてほめられた。 ・ じがむくができたなあ
		合同学習(5)	・ 子どもの国でカレーを作って食べる。 ・ 皮むき、切る、皿洗いなどに取り組む (炊飯遠足) ・ 反省会をし、がんばり賞をもらう。	・ とてもよくがんばってほめられた ・ カレーがおいしくできた ・ また作りたいな。
発表	11	宿泊学習Ⅳ	・ 夕食は、先生と一緒に自分たちでカレー作り。 ・ 皿洗い、ほうろくなども自分たちで取り組む	・ 自分たちで夕食が作れてうれしかった ・ ほめられた。
	10・11	↑ (誕生会)	・ 先生といっしょにカレーを作って食べる。 ・ 皿洗い、しまつなども自分たちで取り組む	・ またカレーにしよう ・ カレーはおもしろい

②. 学習のようす.

a. カレー作りのお手伝い(あたため・堀り起し)

この題材は 炊飯遠足への合同での話し合いを前に、カレーを作
って食べる事によって、子ども達が「カレーはおいしい、作りたい、私も
作れた」という強い欲求、自信から、「炊飯遠足でもカレーを…」と、炊
飯遠足の学習と結びつけて発展させていく事、及び子ども達の実態把
握を意図して設定した。この題材は各家庭でも子どものペースに
合わせて取り組んでもらい、意欲の高まりと、よりくわしい実態把握
をはかった。

o 活動のあらましと子どものようす(一は自主的、意欲的取組み)

活 動	B ₃ , B ₅ 児	B ₁ 児	B ₂ B ₄ B ₆ 児
1. 材料を見る	・「カレー作ろう」「私作	・「わーカレー作って」	・表情、態度で喜ぶ
2. 洗 う	・たわしで洗いぬいで	・水道を出しながらぬいで いる感じ	・うろうろする ・ゲームをする ・室外にいく ・ねころんでる ・テレビをみてる
3. 皮をむく	・さつと皮むき器を使う ・乱雑だがかなりむける ・皮を放りばなしにしてる ・かんばってとりくむ	・玉ねぎの上皮のみ ・皮むき器の使い方がわか らない ・慣れて少しむく	不参加
4. 切 る	・包丁を要求する ・ますぐに切れず「危ない」	・包丁をこわがる ・手をそえればゆくり切る	・匂いにつられて集まり 少しずつませる
5. いためる	・ま先にしようとする	・「してもいいか」と不安がる ・「あつい」といっていやがる	・ふたをはくってみる (B ₂) ・「あつい」と下げる ・ルーをかじってみる (B ₂)
6. ルーを入れる	・ルーの箱をはくって待ってる ・なべのふちからさつと入れる	・「あつい」といやがる ・投げ入れる	・運ばれるのを待つ
7 配 膳	・スプーンを1本ずつきち んと配る。 ・お盆を要求し運ぶ	・皿の数(8)がわからず ・「あつい」といって盆を使う	・金でなごぶ(B ₆)
8 皿洗い	・流し台まで運ぶ(B ₃) ・最後まで手伝う(B ₅)	・教室にかえってしまう	・半分でおわり(B ₆) ・教室にかえってしまう (B ₂ , B ₄)
9 意欲、発展	・おいしい、じょうず ・また作りたい、また作る ・炊飯はカレーを作りたい	・おいしかった ・こんどは作れる ・炊飯はカレーがいい	おいしか つくうか カレーがいいか 意欲的 反応あり

初回でもあり、「先生が作るお手伝いをする」という設定だったので、自主的取り組み（ライン）は少なく、自分達で作ろうとする意欲は高まらなかったが、見たりお手伝いをしている中に「カレーなら作れそうだ」という気持ちがわいてきた事、「おいしかった」「また作ろう」「炊飯はカレーを」という気持ちが盛り上がってきた事で、堪り起し、あたための目的は一応達成できたと考える。

また、各家庭での様子も参考にして、各子どもの好きな事、取り組みやすい事をまとめてみると、次のような傾向をとらえる事ができた。

○ カレー作りで、好んで取り組んだり、うまくできる事

	B ₁	B ₂	B ₃	B ₄	B ₅	B ₆
1	にんじんの皮むき	玉ねぎの皮むき	いもの皮むき	玉ねぎの皮むき	にんじんの皮むき	玉ねぎの皮むき
2	いもの皮むき	野菜を洗う	切る	野菜を洗う	いもの皮むき	野菜を洗う
3	配膳	いものを切る	いためる ルーを入れる	お皿を洗う	野菜を洗う	カレーを画びる
4	いもにんじんを切る	ませ"る	皿を数える	スプーン配り	カレーを画びる	皿を洗う

この表から、中学年としては、野菜洗い、皮むき、が分担の中心になる事やひとりひとりを生かす事だて、は事が何であるかを見つける事ができる。この事は、中学年の実態として、合同学習のテーマに伝え、合同学習での仕事分担や意欲の盛り上げに配慮をしてもらった。

6. 皮むきの練習 I（事前の取り組み、3時間の内の1時間め）

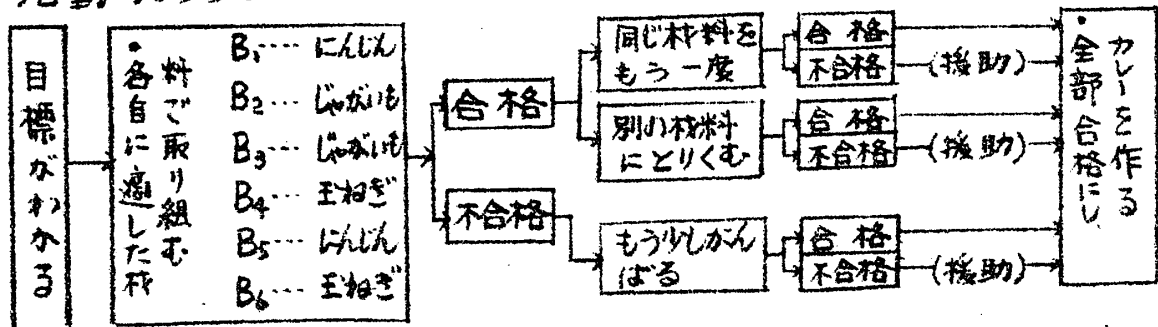
炊飯遠足への話し合い（合同学習）への参加は、一見消極的でクラス内での話し合いほど盛り上がらなかったにもかかわらず、この第一回合同学習を経過してから、子ども達の意識は「みんなで作る」、「中学年もなんぼらしいけん」といった協力、分担の方向へ高まってきた。

この題材は、「中学年が野菜洗いや皮むきをがんばって」と、高学年にはげまされ「よし、がんばろう」と練習に取り組んだ最初のものがある。きれいに皮をむいた、半分むいた、全然むいてない材料を比べ、いちばん良いのを選んで目標を具体的につかませ、しかも「あとでカレーにして食べるんだからきたないのはいけんで」と、意欲と緊迫感を持たせて練習に取り組んだ。

指導に当っては、意欲と失わせず続けて取り組ませる事を大前提に

ひとりひとりの生かし方、援助の仕方、要求度を考慮しながら展開していった。

○活動のあらまし



←ひとりひとりに合った材料、援助の方法、援助の程度で、必ず完成の喜びを→

○子どものようす (一は寺だて)

B₁... にんじんは合格。じゃがいもはすべて難しい。1/2もいたところで「もうできん」と投げ出す。「じゃ、これでカレーを作ろう」の教師のことに両挑戦。B₁児は試行錯誤の中から方法を見つけさせようと見守る。ひざでいもを支えるとむきやすい事を見出し、しかし3/4のところで限界がきかかると、すかさず「よくがんばったね 80点」と声をかける。その後2度見せに来たが、90点、95点と与えて「もう少し」とつき返す。最後の1/4所がとれず 99点として、ちょっと援助してきれいにし100点とした。「キャー100点」と大喜ぶ。4回も不合格になりながらくじけずがんばれたのははじめてで、これを機に皮むきへの意欲と技能が急速に高まっていった。

B₂... 道具、材料をみんな投げてしまう。だっこそ、道具と材料を担任と本児の2人で持ち「むこう むこう じゃがいもくん」とリズムカルに動かすと調子よくむけた。「むけた、ぼくむけた」と喜ぶ。皮をきれいに剥いて袋に入れる B₂児らしきも見せてくれた。

B₃... さっと1個むく。次は6個むくようにと目標を与える。あ、という間にむき上げたが雑なむき方。これはO、これはXと担任と本児とで評価をすると素直にXの部分をやり直す。あと、切りにかかったが まかせびく

B₄... 「せん」と水遊び。両端を切った玉ねぎをボールに入れ水の近くにおく。水をかけて遊ぶうちめくれた皮をはぐっていた。本児には皮むきの意識はなかったが、この活動を出発に本児は玉ねぎの皮むきにあまり抵抗なく取りくんできた。きかけを作る重要性を痛感した。

B₅ --- にんじんは合格。「次はじゃがいも」と自分から取り組んだが、丸型なので刃がすべり $\frac{1}{4}$ むいて「もういい」という。手をそえて角度の感覚をつかませ少し良くなったが $\frac{1}{2}$ で「もうせん」といって投げ出す。これ以上の強要は意欲を減退させると判断し、手をそえて歌をうたいながらむく。でき上りは「100点」としたら大喜びする。丸型はまだ無理なので、本見には以後長型のナークインのみむかせ意欲を持続させた。

B₆ --- どれもやりたくて 全部の材料を取り込み洗う。皮むき器を逆に当てたりして刃が立たずあきらめる。玉ねぎの両端を切って手渡す。つめが仲々立たず放棄。2cmほど皮をむきかけて手渡すと喜んで次々むいた。学習をくり返すにつれ、1.5→1cmと援助を少なくしていった。洗いながらむくので目も痛くなく、以後、玉ねぎむきの中心となった。

以上、方法や手だて、取り組む物はちがっていても、教師のするどい観察による小さな手だてと、「合格してほめられよう」「きれい」にむいてカレーを作ろう」と真剣に取り組んだ場の緊張が子ども達の心を更に高め、取り組み姿勢、技能の向上へとつながっていったと考えられる。

また、各家庭でも毎日一品ずつ皮をむき、食事の材料として必ず生かしてもらうという方法で練習をくり返した結果、炊飯遠足の日、はじめの3~4倍の量がむけるようになっていた。

クラスでの取り組みの様子は、常に合同学習のサークルに報告し、合同学習場面でも生かしてもらうと共に、技能や態度の向上などを全体の場でもほめてもらい、更に意欲を高め、持続するように心がけた。この連絡調整は担任の重要な仕事であると考ええる。

C. お皿とスプーンの準備をしよう（事前の取り組み）

この題材は、宿泊ではランナマットを、毎日の給食ではアルミフレイトを仲介にして展開している配膳の学習の発展である。「～名だから～枚のお皿が必要」という段階への前段階として、具体物（名前を書いた似顔絵）を仲介に1対1対応をしながら、お皿やスプーンを必要数だけ準備する学習である。

本時は炊飯遠足を翌日にひかえ、いよいよ準備の場面であり、4回目の取り組みである。1対1対応で機会的に教えるのではなく、「～さんも

いっしょに」とか「にんじん班のへさん」など具体場面と結びつけた展開をしながら「みんなで仲良く」など友達を意識させたり、遠足への期待感の盛り上げりを配慮していった。

○活動のあらましと子どものようす（にんじん班 B₁ B₃ B₄を中心に）

教師の発問・指示等	児童の行動・発言
・あしたはいはいよ……	B ₁ B ₃ B ₅ 子どもの国でカレーを作る。カレーを食べる日。
・（からっぽのかごを見せ） 手で食べるかな？ なべで食べる	B ₃ （声を立てて笑う） B ₁ B ₅ お皿がいる。スプーンがいる。 B ₅ 取ってこんといけん。（B ₆ と）家庭科室に取りに行こうとする。
・（皿、スプーンの入った箱を示し） 先生が かぞえようかな	B ₃ ほくにんじん（にんじんの絵のかごに）教えて入れようとする B ₁ が B ₃ のかごを取りあげる。 B ₅ と B ₆ は はななの絵のかごのとり合いをする。
・にんじん班から かぞえましよう みんなテーブルに集合	—全員、子どもの国と同じベニヤ板のテーブルに集まる— B ₃ B ₆ …勝手に皿を並べはじめる。
・人がいないのに配るのかな。 にんじん班の人をよびます から B ₃ くん B ₃ くんは並べて。	B ₃ …さっと見つけて並べる。 B ₁ …（テーブルに並べながら） みんなが 食堂に行きよるみたい。 B ₅ …名前を讀んで” たしかめている。
・さあみんな並びました 何人でしょう。	—全員で 1、2…と数える。 B ₂ も声を合わせ B ₆ も注目— B ₁ …15人だ。 いっぱいだなあ。
・お皿はなん枚いほと思う？	B ₃ …15。 B ₁ …首をかしげる。 B ₅ …3 B ₄ …4 B ₂ …5ですね B ₆ …1。
・1枚ずつ配ってみようか （14枚渡す）	B ₃ … B ₁ にさっと半分渡し、1枚ずつ配っていく。 B ₁ …へさんどうぞ” と言いながら配る。 できました。 B ₅ …佐伯先生のがないで” B ₃ …だまて箱から1枚拵て行こうとする。
・B ₃ くん、そんな時は？	B ₃ …1枚ありません（練習して）1枚足りません。
・B ₄ さん おさじを配ろう （皿を指示しながら1本ずつ手渡す）	B ₄ …せん（照れていたが、みんなにはげまされ立ちあがる） よし、よし、と1本おく毎に確認を求めている。 B ₅ …正しくおける度に拍手。 みんなもまねて拍手
・おさじを集めましよう 何本ありますか。	B ₁ B ₃ …両方から集めてくる。 B ₃ …数えないで15です。 B ₁ …数えみて15本です
・お皿を集めます。 何枚でしょう	B ₃ …15。 B ₁ …15かな？ —みんなで声揃えて数える— B ₁ …15だ！（とてうれしそう）。
・次は はなな班です。	

同様にして 次は B₂ B₅ B₆ によって皿、スプーンを揃えた。 みんなで” かご”を持って高学年の教室に行き、 B₃ が援助されながら「お皿の準備ができ

ました」と言う。高学年さんに「合格、ごろうさん」と言われ、ターフの先生にもほめられて 満足感と次への意欲を持つ事ができた。

d. カレーを作って 食べよう (学習の発展)

初めの楽しかった経験を 次の活動へ発展させていく事は、経験を大切に学習の重要ポイントであると同時に、次回の実践結果が初回のものに比べてどれだけ変化しているかをみる事ができるという意味で評価場面としても役に立つ。

10月21日の炊飯満足の後、24日の誕生会では子ども達の要求でみんなでカレーを作った。11月1日の宿泊学習の夕食も圧倒的多数でカレーに決まりしかも 私たちを作りたい(B1, B3, B5)の要求も出て、カレー作りをした。

次の実践例は、11月27日の誕生会でのカレー作りの様子である。Aの
実践例と比べてみるとその変化が顕著である。

○ 活動のあらましと 子どものようす (一は、自主的・意欲的な取り組み)

活動	B1, B3, B5 児	B2, B6 児	B4 児
1. とりくみ	・家で自分で材料の準備	・材料を持ちまわる	・生活訓練室まで道具をはこぶ
2. 洗 う	・7リねい(1)に洗って水に入れる (B1, B5)	・7リねい(1)に、何回も(B6)	・何回も水をかえながら米をとぐ
3 皮をむく	・皮むき器を持って待つ(B3)	・「ぼくするする」(途中でやめる) (B2)	・なべに水を入れ ・ガスをつけ (元栓がしてある)
4 切る (たんぱく(1)は ものを)	・5〜8個をノコギリで く(1人1人、1人1人) ・むけたらささと切る(B2)	・玉ねぎ、おきかけをしなく てもむける(B6)	・人のあいた 1人1人 1人1人を手で切る
5 いためる	・時々火をつけて7リねい(1)で 自分で7リねい(1)に切る ・少しなまけた切り方(B3)	・材料のおき方、おきかたに 手をそえて(B6)	・「たけるけえなとカレー 作るまねをする」
6 ルーを入れる	・油を持って待つ(B3)が B5ととり合いをする。 ・順番を察しみに待つ	・油を持って待つ(B6)	・「ぼくするする」とうれそう (B2)
7. 意欲・発展	・7リねい(1)に入れる ・残り全部入れたらいい いう(B5)	・ルーをちゃんと持って待つ ていた(B6)	・ヨーシといって入れる
	・「ぼくもする」と要求(B2)		
	・おいしかったなー	・おいしいねー(B2)	・おいしかったか? (おいしかった)
	・こんどはだれの誕生会? (B1)	・おいしいか?(うん)(B6)	・また作ろうか? (またしたるけえな)
	・また作りたい。とまろ うで(B5)	・また作ろうか? また作ろう 作ろう(B2)	

④. クラスでの取り組みを振り返って.

以上、合同学習と常にかかわりを持ちながらの クラスでの取り組みについて述べてきたが

- 合同学習での 経験を意欲の根底にしながら、次の合同学習での 意欲的な、活発な活動を盛上げるための きめ細かい あたため、盛り起し、守でてや配慮のある指導が子どもを 一ぱん良く知っている担任でできる事.
- 子ども達の要求を生かして、家族的な雰囲気でも 手軽な場面でも学習が展開でき、合同学習を含めた次の活動へ意欲がつなげる事.
- 合同学習では やりたくても 守の出せなかった仕事でも 取り組ませる事ができ 経験の拡大ができ、やる気が盛り上がる事.

算の点で クラスでの取り組みが重要である事がわかる.

子ども達が いきいきと取り組んでいる様子を「宿泊学習Ⅳ」のおたよりの板すいで述べて まとめとしたい.

- カレー作りでは、B₂くんは手をそえてにんじんをむいた後「ほくきるきる」と、はじめて切る事を要求し、一緒に切ったらとても喜びました。B₃くんなんか 20個のじゃがいもをささとむいて、当然の事のようにどんどん切っていました。B₆さんは「玉ねぎをむいているのだ」と思っていたら、包丁を持ち出して切ろうとする寸前で「はっ」とさせられ B₁さんは、包丁がこわかったなんて信じられないぐらいスムーズに切っていました。B₄さんも 玉ねぎを4個むきました。
- 食事のあとしまつでは、B₂くんが「ちゅと コップを片づけはじめ、洗った食器を種類別に所定のところに片づけたのでびっくりしました。B₃くんは、指示されてからで「すが 皿を5枚、グラタン皿を18枚洗いました。B₆さんは、ていねいには洗えませんが、先頭になって仕事を始めるペースメーカーで、お皿をどんどん洗い、B₁さんがそのお皿をそっと、ていねいに洗いなおしているなど 感心しました。B₄さんも「せん」といって逃げないで先生とお皿運びをしました。B₅さんは、お休みでざんねんでした。
- カレーの中から3センチもあるにんじんが出てきたり、家庭科室が水びたしになったり いろいろありましたが、そんな事は問題ではありません。みんながこんなに一生懸命働いている姿を今迄 見た事がありません。

⑥ 反省と考察、

炊飯学習で学習のくりかえしがあり、1にことにより、一つ一つの技能の高まりとみうけに学習することがよくわかり、学習意欲を高めていったように思われる。又、合同学習により、他クラスの児童の活動を見て、刺激を受け、作業の能力を高めた。いろいろな作業に興味をもつなど、経験を入切にした合同学習は成果を上げたようだ。次のような点がより効果的であったと考える。

⑦ 効果を高めた点、

① 学習する度に食べる機会をと、自身は、次に作る時にもがんばろうという気持ちにさせた。

② Xニューが「カレーライス」と児童になじみの深いものであり、作業するのに手頃な教材であった。

③ 最初に合同学習をとって話し合い、共通の意欲をもたせたこと。

④ 役割分担を学級単位にし、学校学習をとりくみやすくしたこと。

⑤ 各クラスでいろいろ工夫した実践がなされたこと。

⑧ 反省点、

① 班分けを行なったが、班分けの特色を生かせず、全体学習のようになつてしまった。

② 児童の作業の役割が実態にあつていなかったということについての話し合いが行なわれなかった。

③ 教師の役割が不明確で、事前準備などが充分に行なわれなかったといえなかった。

④ 教師がまわりの児童にだけ目がいき、全体の動きをつかめていなかった。

以上のような効果、反省を考え、次回からは事前の打ち合いを充分にし、教師の役割についてや、クラス学習と合同学習の関わりなどについて、充分に話し合いながら合同学習を効果的に生かせるように指導していきたい。

(2) 学習発表会

① 取り組みについて

学習発表会は毎年行なわれている学校行事である。小学部では今回、劇、音楽、体操、制作をした。今回は、研究テーマに照らした実践として、特に劇、制作をとりあげた。

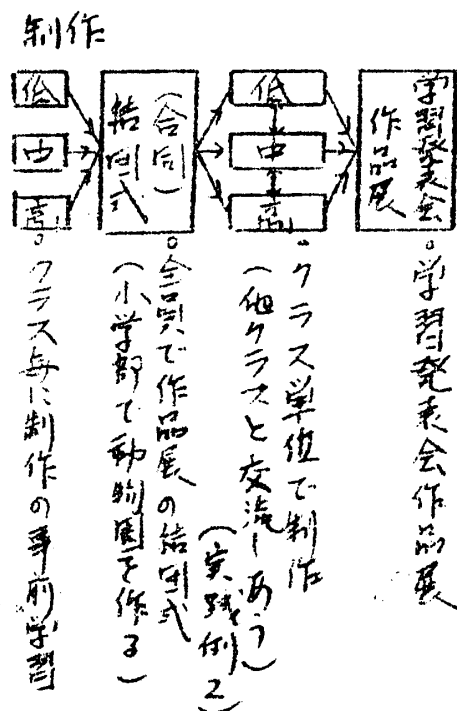
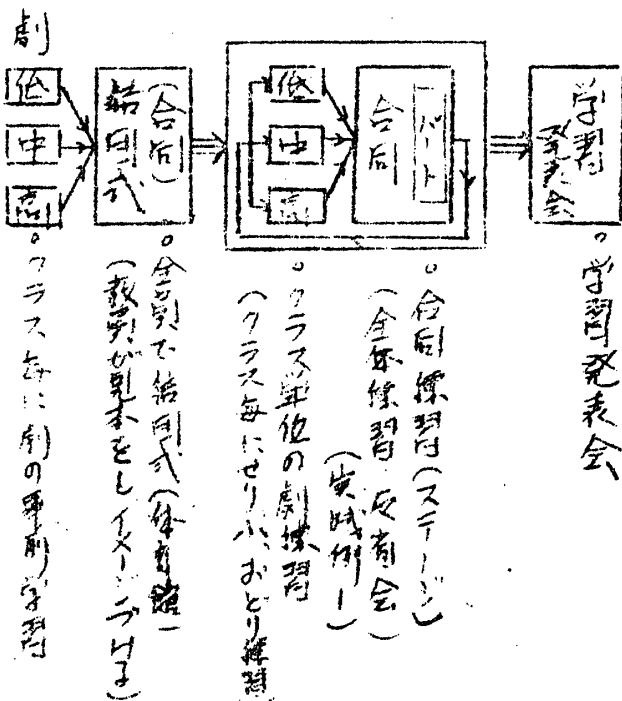
劇は、小学部全員が参加するものであり、合同学習の場が指導の中心になる。また、一つの劇を演ずるためには、何度もくり返し練習することが必要である。自分より上手な友達や先生の演技を見てくり返し練習することが中身の濃い演技を生むことになると考えた。

制作は、各クラスごとに大きな動物を作って、小学部で大きな動物園を作ろうということにした。指導に当っては、クラス間のできぐあいを見せ合いながら制作を進めた。この交流の中でいろいろ刺激し合い、新しい経験が生まれ、児童の学習を楽しいものとした。

② 目標、

- ・先生や友達とのかわり合いながら意欲的に学習発表会の準備や練習にとりくもうとする
- ・自分の役割を最後までやりとげようとする。
- ・友達と助けあい、後かたづけなどを自分でしようとする
- ・学習発表会に参加して、楽しい思い出をもつ。

③ 指導計画



④ 合同学習（実践例1）

——劇「ねずみのよめいり」の低学年を中心とした実践例——

⑦ はじめに

年々重度化・多様化する養護学校の、しかも小学部の劇となるとなかなか難しい。

まがりなりにも台詞が言え簡単な演技のできる子から、まったく言葉がなく、ステージに上がることにすら拒む子まで20人全員を参加させる劇である。

とくに低学年の子ども達は、下記の表にも示すように、経験的にも能力的にも劇というにはほど遠い存在であった。

児童の実態

児童名	学年 (IQ)	特 性	歌やおどりに関する経験・興味
A ₁ 男 (未測定)	1年	・情緒障害。喜怒哀の感情が出はじめ、 気に入らないと自傷行為や友達に手を出す。 ・身辺処理に補助が必要。	・ほとんど関心を示さない。 ・担任にべったりくっついており、時々感情のコントロールができず、泣いたり走り回る。
A ₂ 男 (未測定)	1年	・ダウン症。基本的な生活習慣はほぼ確立している。活発で行動範囲も広く、言葉はほとんどないが、全身で意思表示をする。	・元氣よく歌（声を出し）大きな動作でおどることができるが、劇との関連把握はほとんどできない。
A ₃ 女 (未測定)	1年	・てんかん。語い数も多く会話も成立するが集中力に欠け、よく動きまわる。 ・身辺処理は一人でできる。（時間を要する）	・歌やおどりは好きだが、まわりが気になるので専念できない。
A ₄ 女 (未測定)	1年	・てんかん。はっきりした言葉ではないが、音声表現がふえ表情も豊かになってきた。 ・身辺処理に補助がいる。	・楽器や音楽に強く関心をもち、音の源を求めて突進はするが、歌やおどりはほとんどできず、すわりこんでしまうことが多い。
A ₅ 男 (未測定)	2年	・ダウン症。指示言葉をよく理解し行動しようとした。排尿をはじめとする身辺処理能力が向上しつつある。	・関心はあるようだが、一人でおどることも、歌うこともできず、うろうろしている。
A ₆ 女 (未測定)	2年	・ダウン症。基本的な生活習慣はほぼ確立している。語い数も増え、仲間を意識し、友達のお話などもできた。	・歌や曲に合わせて創作ダンスもでき、大変喜んで取り組み、習得能力も高い。

① 取り組みのねらいと指導の重点

上記のような児童の実態をふまえて、下記のような基本項目

を盛りこんだシナリオ作りに取り組んだ。

- ・子ども達がよく知っているストーリーであること。
 - ・子ども達の個性や能力を有効に生かせること。
 - ・一定のパターンがあり、くり返しのおもしろさから覚えやすい台詞やおどりであること。
 - ・既習学習を盛りこみ、学級単位のパート練習ができること。
 - ・全職員が役割を分担して子ども達といっしょに参加すること
- を大前提として出来上がったのが、ミュージカル風“ねずみのよめいり”である。

既習の歌やおどりを中心にした学級のパート練習をもとに、合同の舞台練習をし、また学級のパート練習に返すという学習のパターンのくり返しを毎日積み上げていくことにした。

⑦ 練習の経過と子ども達の変容

結団式(がんばるぞの会)の日は、台本を片手に全職員が大げさな身ぶり手ぶりで劇を演ずることから出発した。このことは、子ども達に視覚的経験を与えるとともに、自分達もやってみようとの意欲を高めるのに役立った。

この日より、中高学年の担任は、台詞のある子の時間内外練習を開始し、また保護者への協力(家庭での練習の補助や励まし)を依頼するなど学級個別のパート練習に取り組んだ。

♪ ドラえもん之歌に合わせてくもの子ども達が出てくる。

- ・舞台のなかからくもを呼ぶ声が聞こえる。
くもの子どもたち「おや、ねずみさんだ」
くもの子どもたち「おみやげをいっぱいもっているよ」
くもの子どもたち「くもさーん くもさーん」
- ・くもを呼びながら入る。

♪ たわらはごろごろの曲に合わせてねずみ達が出てくる。

- ねずみたち「おや、ねずみさんだ」
ねずみたち「おみやげをいっぱいもっているよ」
ねずみたち「かべさーん かべさーん」
- ・かべが倉の後ろから出てくる。ねずみたちは舞台のそでに入る。

低学年は左のような二場面を担当した。

おどりは、「ドラえもん」に「たわらはごろごろ」を加えた単純なものであったが、そう簡単には進まなかった。

ふりつけを変え、相手を換え

て練習をくり返すが、なかなか定着せず日にちばかりが過ぎていった。しかし、パート練習、合同練習をくり返しおこなっているうちに、A₂、A₆は劇全体の流れを体で覚え、自分の出番に見通しがもてだしたのか、幕のそでで待つ態度も大変よくなり、ほとんど手がからなくなってきた。

当日まで一週間となったころには、A₆は自分の台詞を覚え、A₂も言葉にはならないが、精一杯声をはりあげ、ゼスチャーたっぷりのかわいい演技ができた。

まったく参加のできなかったA₅も、自ら担任の手をとっていっしょにおどろうと催促するようになり、両手をつないでジャンプをするだけだが、A₁もそれらしく動くようになってきた。

またA₄もでっかいおなかと重たい頭をかわいらしく動かしておどる日がふえてくるころには、合同練習に一つのまとまりが見られはじめた。

担任に励まされ、友達にカー杯拍手を送られ、家でもほめてもらう日が続き、子ども達の目は生き生きと輝き、役に不満のあった子も自分の役作りに一生けん命になってきた。

子ども達の生き生きとした学習につられて職員もがんばった。学級の枠をはずして子ども達と接し、共に練習し、その成果に子ども達以上に大喜びし、次回の練習計画や、道具や衣装作りに意欲を燃した。

また、毎日の練習の始めに全員集合してその日の目標を決め、練習終了後、子ども達一人ひとりの努力の様子をしっかりと見い出してほめることを中心に反省し、練習を積み上げていったことも効果的であった。

そして、前日の総仕上げ練習で念願の百点満点をもらった子ども達は、大きな喜びと満足感を抱いて当日を迎えたのである。

④ 学習発表会当日の様子

よく透る大きな声で台詞を言い全体をリードしたおとうさんねずみのC₄、C₄にリードされてよく頑張ったおかあさんねずみのB₁、そしてC₄とB₁の間にはさまれて満面の笑みとユーモラスな動作でちゅう子役を頑張ったB₆、壁の役に不満だったちゅう子役肥満気味のC₇

も、台詞を覚え、その堂々たる演技ぶりを友達にほめてもらう毎に自分の役に満足し、すばらしい演技をした。風の役で大活躍をしたC₁。大きなうちわを体中で動かし、ころんだり、わらったりの大ふん闘であった。

あらゆる声や音に逃げまわっていたC₃も担任といっしょにおどり、大きな体を左右にゆすりながらうれしそうにおどったB₄や、軽快なリズムを好み、本当に楽しそうにおどったB₂等々……

みんな精一杯自分の力を発揮し、本当に楽しそうに生き生きと演技をした。

④ おわりに

20人の子ども達と職員が一体となって劇という一つの目標に向けて努力し、一応の成果をあげることができた。

そして、紆余曲折はあったが、どの子にもそれなりの成就感を味わわせることもできた。

低学年の子ども達も、中高学年の友達や担任以外の先生達と接することでひとまわり大きく成長した。

年長児はこまめに年少児の世話をし、年少児も素直に年長児の指示に従った。また、年長児の生き生きとした演技に刺激されて、年少児も力いっぱい歌い、おどった。

最初は与えられた経験であっても、それをくり返しおこなうことによって自分のものとし、喜びや意欲をもって、より幅の広い経験の足がかりとして磨やくしていった子ども達の姿を目の当りにして、経験させることの大切さを、改めて、強く感じた劇への取り組みであった。

⑤ クラス単位での取り組み（実践例2）

——制作における高学年での実践例——

小学部では、学習発表会にみんなで一つの物を作り、見てもらおうと動物園作りに取り組んだ。そして、子どもたちが友だちとの関りをひろげ、深めながら、意欲的に制作に励み、学習発表会へより大きな期待感をもってくねることをねらった。

ア. 高学年における取り組みのねらいと指導の重点

高学年では、(1)目的意識（お家の人に見てもらおう…）をもたせ、制作励ませる。(2)作品完成までの見通し（今、何の仕事？次は？…）をもたせながら作業させる。(3)やった、頑張ったという自信、満足感をもたせる。(4)小学部のみんなで力を合わせて作ろうという気持ちをもたせ、協力したり、助け合ったりさせる。をねらいとした。

指導に際しては、(1)昨年の学習発表会（主に展示会）のスライドを見せ、制作への必要感をもたせる。〔小学部合同学習〕(2)作業手順を明確に示す。(3)完成した作品を使って遊んだり、お家の人に感想を話してもらったりする。(4)他クラスの作品や友だちの様子を見学させ、友だちとの関りの場をもつ。などを重点においた。

友だちとの関りを大切にしながら、目的意識をもって努力し、満足感や自信をもつ学習（経験）を積み重ねさせ、それを少しでも自分のものにしていき、日常生活においても、主体的に取り組んでいく子を目指したのである。

イ. 児童の実態

高学年は学習意欲があっても、持続力に欠ける面があり、根気強く努力するのが苦手の傾向にある。また、友だち同士の関りも十分とはいえず、クラスのまとまりもあと一歩といったところである。

児童	学年	特 性	制作に関する経験・興味
C1 男	未測定 5年	・簡単な内容であれば見通しをたてられる。 ・友だちと仲よくできる。	・作業は早いがあるが雑な面がある。 ・目新しい物に興味をもつが反面おきやすい。
C2 男	38 6年	・簡単な内容であれば見通しをたてられる。 ・友だちにやさしかったりさびしかったり波がある。 ・ダウン症。	・作業はいいねいであるが遅い。 ・楽しんで作業するが興味を持続しにくい。
C3 男	未測定 6年	・見通しをたてることはほとんどできない。 ・友だちにあまり興味・関心を示さない。 ・自閉的傾向。	・指示されたことはしよるが拒否することもある。 ・制作にはほとんど興味を示さない。

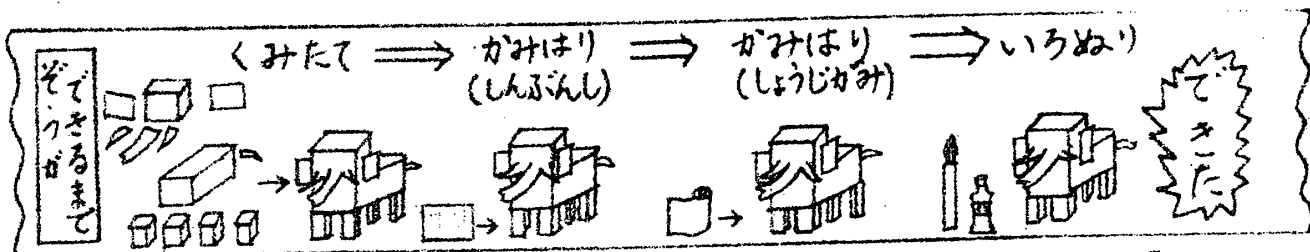
C4	52	見通しをたて、自主的に取り組もうとする。	工夫しながら作業しようとする。
男	6年	競争心がやや強く、自分のことが先行しがち。	意欲的で、楽しみながら作業する。
C5	未測定	・パターン化された内容であれば、見通しをたてられる。	指示されたことはしようとする。
男	6年	・友だちにはあまり興味・関心を示さない。	・制作にはあまり興味を示さない。
		・自閉的傾向。	
C6	40	・簡単な内容であれば、見通しをたて、能率的に取り組む。	・友だちの作品をまねることが多い。
女	6年	・困っている友だちの面倒をよくみる。	・見通しがたてられると、楽しんで取り組む。
C7	48	見通しをたて、自主的に取り組もうとする。	工夫しながら作業しようとする。
女	6年	・たれとしても仲よくできる。	・楽しんで作業し、ほめると意欲が高まる。
C8	未測定	見通しをたてることがほとんどできない。	・簡単な作業であれば、しばらく続けられる。
女	6年	・体力的に劣っており、友だちとの関りが薄い。	・友だちと同じ作業をしようとする。
		・てんかん	

ウ. 指導計画

次	学習	ねらい・意図	学 習 内 容
1	合同	・小学部のみんなで力を合わせて、動物園を作ろうという意欲づけをする。	・学習発表会(展示会)って何だろう？ ・誰が見に来るんだろう？ etc
2	学級	・制作の必要感をもたせるとともに、動物制作への意欲づけをする。	・誰が見に来られるんだっかな？ ・どんな動物を作ろうかな？ etc
3	学級	・制作への見通しをたてやすくするための手だてとして、作ろうとする動物(象)についての学習をさせ、イメージの確認・拡大を図る。また、制作に必要な道具やその使い方についても学習させる。	<div> <div> 象の体・目の色は？ 象の足・耳・目の数は？ 象の体の大きさはどれくらい？ 象の鼻の長さはどれくらい？ 象の耳の大きさはどれくらい？ ぬずみ色はどうしたら作れる？ どんなふでがあるだろう？ </div> <div> →スライド・写真を見て学習したり、ぬり絵をする。 ↓ スライド・写真をしながら画用紙に象の絵をかく。 etc </div> </div>
4	学級 A B→C	・作業の手順を理解させるとともに、作品完成までの見通しをもたせながら作業させる。 ・クラスみんなで力を合わせて作業させる。	<div> <div>ダンボール箱で象のほね組みを作る</div> <div>ダンボール箱に新聞紙をはる</div> <div>ダンボール箱に色をぬる</div> <div>ダンボール箱に障子紙をはる</div> </div> ・他クラスの作品や友だちの作業している様子も見学し、励まし合う。
5	学級	・クラスみんなが力を合わせて作った頑張るという自信・満足感をもたせる。	・頑張り賞をもらう。 ・完成した作品を使って遊ぶ。 etc
6	合同	・発表会へより大きな期待感をもたせる。意欲を盛り上げる。	・～先生この動物園はどうですか？ ・展示(お父さん・お母さんに見てもらおうね!!)

工. 学習の様子（指導計画4次について）

制作には“みんなで力を合わせて作ろう”を合言葉に取り組ませた。掲示板には、次のような作業手順を図説し、作品完成までの見通しをもたせるようにした。



また、他クラスも見学させ、他のクラスの友だちへの理解、励ましをねらう一方、高学年の子もために、制作へのより強い意欲づけをしようとした。

以下、そのような意図のもとに行った学習の様子について記しておきたい。

課題	教師の発言・活動	子どもの反応
ダ子 ン紙 ボを ーは ルる 箱場 に面 障	<ul style="list-style-type: none"> ・ あれ水、C₈さんがのりがついていないのに、紙をはろうとしているよ。 ・ 誰かのりをつけてあげる人はいないかな？ ・ C₇さんありがとう作る前に“みんなで力を合わせて作ろう”と話したんだね。 	<ul style="list-style-type: none"> C₈ ・ (黙ってC₈の方を見ている) (C₈は作業を続けている) C₇ ・ (C₈が紙をはろうとしているところにのりをつける) C₈ ・ (再び作業を始める) C₄ ・ (C₇と話している) C₈さんはC₄に紙をわたす係、C₇さんはのりをはる係、C₄は紙をはる係-----
ダ色 ンを ボぬ ーる ル場 箱面 に	<ul style="list-style-type: none"> ・ (掲示板を見せながら) 象に障子紙をはる仕事が出来たね。次はどんな仕事だろう？ ・ そうですね(掲示板に印をつける) ・ 象が出来るまであと少しだよ!! ・ それじゃあ、色をぬろう。うむ、ちやとまでよ、象の体の色は何色だったかな？ ・ 何色と何色をまぜるとねずみ色が出来たかな？ 	<ul style="list-style-type: none"> C₄ C_{1,2} ・ 色ぬりだ!! ・ (少し遅れて) 色ぬり! . C_{1,2,4,7} C_{1,2,4,7} ・ やったー。ワー----- C₄ ・ (再び、歓声が上がる) C₄ ・ ねずみ色!! C₇ ・ 白と黒だと思ひます。 C₄ ・ 白をたくさんいれ黒がはいりますよ

他のクラス(中学年)の様子を見学する場面	・みんなはとってもよく頑張っているけれど、中学年の友だちはどうかな? ゴリラ作り頑張ると励ましに行こうよ。	C _{4,6,7}	・行こう、行こう
	・(中学年の教室に入らせる)	C ₁	・ゴリラ、えー(落ち着かない)
	・ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">ゴリラがガオーガオーと声をあげ、話し始める</div>	C ₄	・ワー(と言って教師の顔を見る)
		C _{1,2}	・ワッ(ゴリラに近よる)
		C	・(ゴリラの方をじっと見ている)
	・よし、教室に帰って、高学年も頑張ろう!! 中学年の友だちに「頑張ると言っておげてあげよう	C ₄	・あーあ、ちえ
		C _{6,7}	・私たちの象もいいもんね
		C	・中学年さん頑張ってる(声が小さい)
		C _{1,2}	・ガオー、ガオー(走って教室へ)
		C _{4,7}	・高学年のも声が出るようにしたいな

オ まとめ。

制作では、ダンボール箱に紙をはる、色をぬるという作業が中心で、いわば、簡単な作業の繰り返しである。しかし、子どもたちは力を合わせて、こつこつと制作に励んでいた。その理由として、他クラスの作品や友だちの作業している様子を見学したことが子どもたちを刺激し、制作意欲をかきたてたこと、象について学習させたり、制作手順を明確にしたことで、子どもたちが作品完成への見通しをもちながら取り組めたことなどがあげられよう。

しかし、小学部のみんなで力を合わせて動物園を作ろうとスタートした制作で、他クラスの友だちが作った作品に不満な態度(工参照)を示したのは問題である。子どもたちは、制作に一生懸命取り組んだので、それだけ作品(象)に愛着をもつのも、当然ではあろうが、他のクラスの作品や友だちの努力を認められるような豊かな心をもって欲しいと願うのである。そういうことから考えると、むしろ、クラスという枠を解いたグループ編成が適当であったかも知れない。

今後は、上に述べたような問題点に加え、個に応じた学習のさせやその手だてを検討しながら、研究をすすめていきたい。

⑥反省と考察

学習発表会は学校行事ということで、研究テーマにそって指導を進める一斉で、発表会の日までに完成させなければならぬという気持ちで、又、とりくみも早く行うため、炊飯速足の反省が十分に討議されておらず、学習発表会に生かせるかどうか不十分であった。しかしそれにもかかわらず、炊飯学習での経験がし、かり子どもたちの力となり、全員の力を生かしてとりくんだため、前回の反省にあった教師の役割分担もうまくいき、子どもの参加も前回以上に活発であった。合同学習のねらいがあらわれ、他の児童、クラスを意識することが多く、技術の向上や意欲の強まりがみられたり、低学年の児童の世話をする姿もみられた。

⑦効果と高めた点

②合同学習の始めと終わりに先生の話をとってきて、目標を立てたり、評価をして、最後に点数をつけて意欲を高めたこと

③合同学習の後にセリフの部分の練習を行なうパターンを作ったこと

④劇の中に着せかうなじみのあそびやおどりをとりいれたこと

⑤日常生活の中でも全職員が声をかけ、はげまし合ったこと
(以上 劇)

⑥クラス学習の中で常に他クラスを見学したり、話題にして意識を高めたこと (制作)

⑧反省点

②児童一人ひとりの実態把握が不十分であり、目標を明らかにしないと指導が不適当であり、とりする。

③子ども達の日々の評価をどう捉えるか、各クラスと共通のものが必要ではないか。

以上の反省のほかにも今回改めてクラス学習と合同学習のメリット、デメリットについて話しあった。以上の反省を生かし、次回は個人目標を定め、全員の共通のものにし、目標にそって評価を行なうよう話し合った。

④ 学習のようす（実践例）

⑦ とりくみにあたって

事前学習として二週間の期間をもち、そのうち7回の合同・グループ学習を組み立て、飾りづくり・飾りつけにとりくんだ。

12/6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
結団式（クリスマス会話・グループわけ）	飾りづくり	ツリー到着・飾りづくり・飾りつけ	飾りづくり・飾りつけ・サンタさんに電話	（クラスでのとりくみを中心に）	（クラスでのとりくみを中心に）		飾りづくり・飾りつけ・サンタさんに電話 プログラムをみる	飾りづくり・飾りつけ・サンタさんに電話	（クラスでのとりくみを中心に）	（クラスでのとりくみを中心に）	前日準備（会場準備・飾りつけ） （サンタさんに電話）	クリスマス発表会

まず、子どもたちを2つのグループにわけることとした。このとりくみは、飾りづくりという作業を中心としており、作業能力や雰囲気等を考慮しながら、全児童を作業能力順に並べ、2つのグループにできるだけ均等に振り分けた。（炊事学習の時のグループわけは、各クラスごとに2つにわけ、もちより、合同として大きく2班に振り分けたわけだが、今回は、合同学習としても3回目になり、教師側も子どもたち全体がよくわかってきたこともあり、グループわけは、全体を把握した上でクラスをといて、そのまま2つにわけることになった。）子どもたちは、この2つのグループを、それぞれ「サンタ班」、「トナカイ班」と名づけた。

一単位時間の学習内容は、まず全員で「がんばろう」と意気をあげ、それからグループにわけられ飾りづくりをした後、また全員でプレイルームに設置してあるツリーに飾りつける、という **合同** → **グループ** → **合同** というパターンを繰り返していった。

しかし、クリスマス発表会をめざしての学習は、このような合同学習だけではなく、各学級でもツリーの飾りつけ、出しものの練習などをしてとりくんでいった。つまり、各学級での発表会へのとり

くみを基礎としながら、並行して合同学習をくみたてていったわけである。

① たのしい雰囲気の中で

飾りづくりでは、ぬりえ・きりえ・はりえ・紙ねん土・輪っなぎ等をとり入れた。教師側はひとりひとりの感覚・知覚の訓練的な面のねらいをもちながら、しかし、あくまでも子どもたちには、楽しい雰囲気の中で、友達とかかわり合いながら、みんなで作業する楽しさ・喜びを味わわせることを大切にしていた。

また、作業の場、雰囲気を考慮し、2つのグループを別々の部屋で作業させたが、グループ間の交流を常に行い、ライバル意識よりもむしろ励まし合い、ほめ合う集団関係としていくよう配慮した。

仕事の仕方がだんだんわかって作業に楽しくとりくめたり、大きなツリーが日ごとに飾りつけられていく喜び・楽しさで子どもたちの意欲を盛り上げていくと同時に、サンタクロースへの電話での話、プレゼントやケーキ等の楽しみでいっそう盛り上げていくよう努めた。

※ 学習の一例（6回目の学習）

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
<p>1. 低学年の教室に集合しかんぱろう会をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ のり、はさみ、クレパスをもってくる。 <p>2. グループに分かれて飾りづくりをする。</p> <p>（サンタクロース班（低学年教室） トナカイ班（高学年教室））</p>	<p>1. クリスマス発表会も近づき、飾りづくりや飾りつけもあと2回しかできないことを知らせ、かんぱって飾りづくりをしよう!! と雰囲気を盛り上げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ エイエイオー!! とかけ声をあげさせ、意欲を盛り上げたい。 <p>2. お互いの班を激励させあい、サンタクロース班はトナカイ班を拍手で送り出させたい。</p>
<p>サンタクロース班</p> <p>(低) A₁ A₄ A₅ A₆ (中) B₃ B₄ B₆ (高) C₁ C₃ C₄ C₇</p>	<p>トナカイ班</p> <p>(低) A₂ A₃ (中) B₁ B₂ B₅ (高) C₂ C₅ C₆ C₈</p>
<p>作 業 内 容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ぬりえ（クレパス、えの具） ○ きりえ ○ 輪っなぎ ○ 紙ねん土 ○ クッキングホイルをつかって ○ はりえ <p>※ いままでに作ったものを準備しておき、子どもたちの作りたい</p>	

ものをさせたり、その場の様子をみながら、させていきたい。

- 後片づけをする。
 - 3. できあがった飾りをもちより、見せ合う。(フォレイルーム)
 - 作品を見せ合う。
 - かんはったことをお互いほめ合う。
 - 4. 飾りつけをする
 - 2本の木に自由に
 - 高い所は台にのって
 - みんなが1つはつける
 - みんなで助け合って
 - 5. サンタクロースに電話をしもらう。
 - 飾りのできばえは?
 - もうひといき、かんはろう!!
 - 6. ツリーのまわりに集まり、歌をうたう。
- 作業がしやすいよう、教室内の環境を整備しておく。
 - クリスマスの雰囲気作りに音楽をながす。(小さな音で)
 - 賞賛や励ましの言葉かけをし、楽しく意欲をもってとりくめるよう配慮する。
 - 友だちどうしのかかわりをもたせるため分担を決めたり、流れ作業をとり入れ、みんなでつくる意識をもたせる。
 - 全員で協力して後片づけをさせる。
 - 3. 2つの班がそれぞれよくがんばったことをほめ、飾りつけへの意欲へつなぐ。
 - 飾りつけした後で、サンタクロースに電話をしてみようと思ったえ、飾りつけへの意欲をもりあげたい。
 - 4. 音楽を流して、いろいろな会話をしながら楽しい雰囲気の中で飾りつけをさせたい。
 - 全員が1つでも飾ることができるようになりたい。
 - 班にこだわらず自由に飾りつけさせたい。
 - 松の葉なので、目をついたりしないよう注意して、安全面に気を配る。
 - 5. サンタクロースの電話は、意欲の盛り上げだけでなく、子どもたちからどんなことが、サンタクロースに伝えてほしいか引き出し、子どもたちの心の中を知ることにも意図している。
 - ツリーが、たいぶ飾られたことを感じとらせ、もうあと少しかんはろうと意欲つける。(てっぺんの星、雪をかざる)
 - 6. 元気に歌をうたい、楽しさを味わわせる。

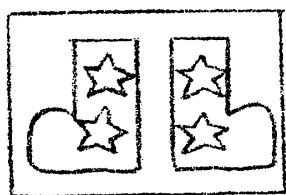
（ジングルベル
赤鼻のトナカイ
ひいらぎかざろう）

7. ツリーとお別れする。

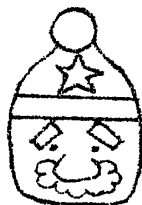
7. 次の時間までツリーにさよならを言い、またがんばって飾りをつくろうと励まし、終わる。
○ 飾りにふれさせたりしながら帰らせる。

＜飾りの種類＞

◎ ぬりえ



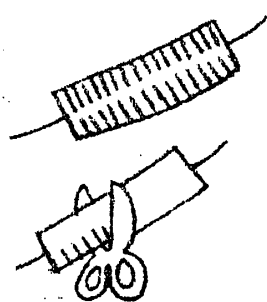
◎ はりえ



◎ 紙ねん土

（型ぬきでねん土をぬきとる）

◎ モールづくり



◎ 輪っなぎ



⑦ くり返していくうちに

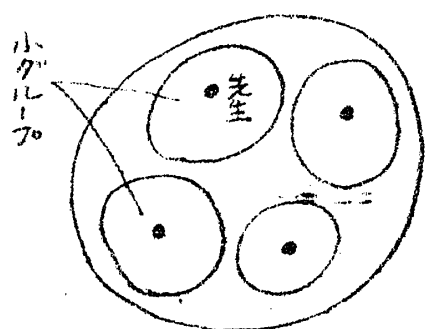
はじめの2回あたりまでは見通しももてず、全く雑然とした盛り上がりにくい雰囲気だった。はたしてどのようなことになることかと内心心配していたが、3回、4回とくり返していくうちに、子どもたちにも、とりくみの雰囲気がわかってきて、だんだんとクリスマス発表会に対する期待感がでてきた。そして、回を重ねるごとに気分は盛り上がりつつあった。また、作業を通してグループとしてのまとまりもみられるようになってきた。

α. 小さい子は大きい子を見習って、自分も「○○つくる。」とき

いたり、大きい子も小さい子に模範を示したり助けたりする場面もみられるようになった。また、先生に指示されなくても、友だちどうしでお互い、作業の仕方を学び合ったり、手順も次第に早くのみこめるようになっていった。グループの中には、作業に参加することがなかなか困難な子どもたちもいるが、とにかく、その場

にみんなといっしょにしていることを目標にした。回数を重ねるごとに、だんだんと参加していく様子もみられ、いっしょにしていることをいやがることなく、少しでも色をぬったり、友だちの作業を喜んでみたりするという場面もみられるようになった。

b. ひとつのグループの中にも、また小さなグループがいくつかでき、その中で大きい子、小さい子がかかわり合いながら作業をしていった。その小さなグループは、毎時間同じメンバーではなく、時には、子どもたちが自然にしたいもののところへ集まってきたり、時には、教師側が意図的に大きい子、小さい子を混ぜ、ふ



(ひとつのグループ)

れあわせる等、作業の内容により、いろいろなメンバーに変わっていった。そして、とりくみをくり返していくにしたがって、グループの中で作業に参加しない子どもが少なくなり、どこかのグループでかかわりをもって参加できるようになっていった。

c. 教師間も、事前に打ち合わせを行いながらも、その場に応じて分担をしていき、回を重ねるごとに意図の疎通もスムーズに行うことができた。さらに、子どもたち一人ひとりの個人目標をたて、毎時間の記録をとることにより、次の作業へのめやすをたてていくことに努めた。しかし、あくまでも技能的な面よりも、楽しい雰囲気の中で学習させることが、子どもたちにとって、ゆたかな心やたくましい行動を育てるうえで大切なことであるということをも常に共通理解していった。

d. とりくみを進めていくにしたがって、最初「クリスマス」というものがあまり意識されなかった子どもたちも、クリスマスに対して「たのしいもの」という期待感がめばえていった。さらに、飾りづくり、飾りつけに対しても意欲的な面がみられるようになり、朝登校するなり「せんせい、今日は何つくるの」と問いかけたり、家から家族といっしょに飾りをつくってもってきてたりする子どもも見られるようになった。また、合同学習を終え、各クラスに帰って「たのしかった」と先生に告げたり、サンタクロースの電

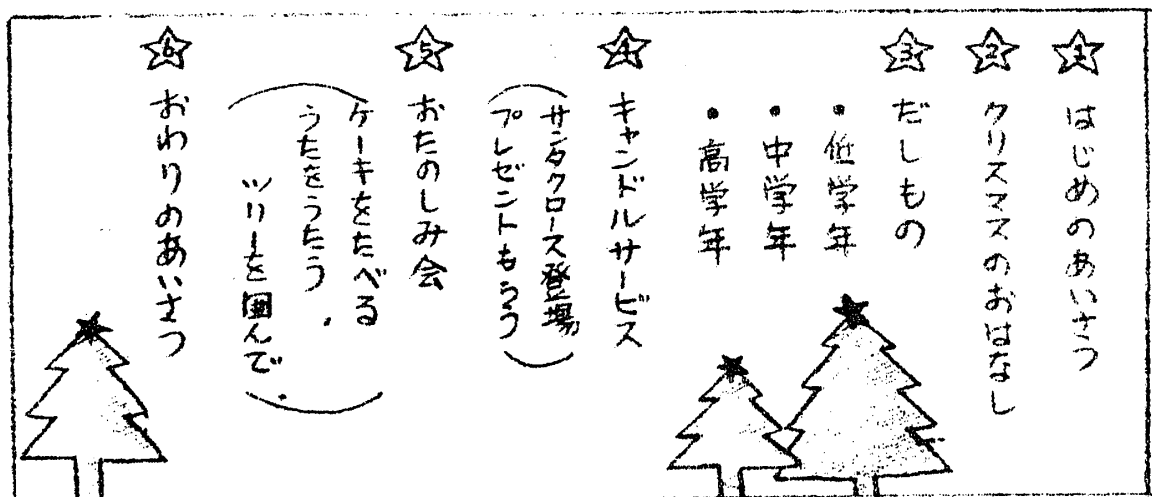
話を楽しみにして、「サンタさん、おみやげもってきてくれるかなあ」といったり、電話にかかって、「今日は〇〇をつくりました。見に来て下さい!!」と元気に応対する様子がみられた。

子どもたちにとっては、このサンタクロースへの電話がとても楽しみで、自分たちのつくったツリーをみてほしい。がんばったとほめてほしい。プレゼントをもってきてほしい。とサンタクロースへの期待がどんどんふくれあがっていった。さらにも国目の学習の際電話に工夫をし、会話ができるようにしたため、サンタクロースの声が届いたことが、子どもたちにはすごい驚きだったと同時に、喜びも倍増したようだった。

㊦ 当日をむかえて

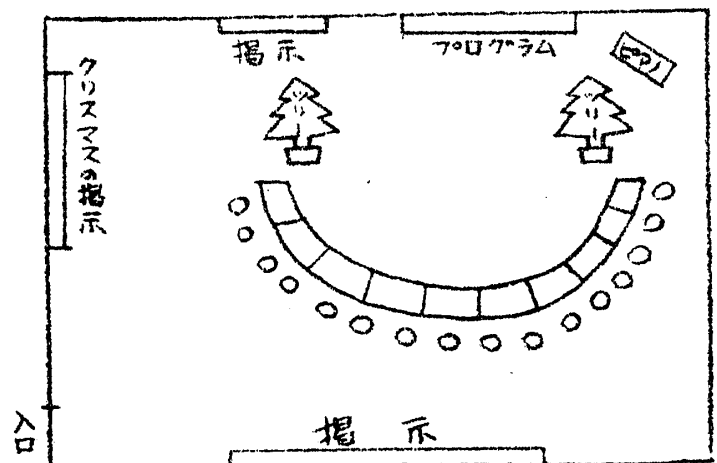
こうして、クリスマス発表会への意欲が最高に盛り上がったところで、いよいよ当日を迎えることができました。

～ プログラム ～



前日に、会場（フレイルーム）の装飾や、机の準備、掃除等を子どもたち全員で行った。

いよいよ明日にせまった発表会への期待でいっぱいだったようだ。



会場図

Q. 当日の様子（12月18日）

18日当日、私たちのクリスマス発表会のために...といってもいいような、外は雪景色。朝から子どもたちも大喜びで、雪の中、サンタクロースのくるのを心待ちにしていた。発表会は楽しい雰囲気の中、高学年の子どもの司会で進行された。

・各クラスの出しもの

クラスごとに練習してきた出しもの（低学年—あわてんぼうのサンタクロースの踊り、中学年—手遊び指遊び、サンタクロースのうた、高学年—木琴、合奏）を、それぞれ一生懸命ひろうした。

・キャンドルサービス

暗い部屋の中、キラキラ光るツリーをみて、子どもたちは大喜びだった。自分たちのつくった大きなツリーにたくさんの光がつき、きれいなツリーをみて、気分も盛り上がったようだった。さらに、机の上にもろうとくを立て、代表の子どもがみんなの机のろうとくに火をつけてまわった。きれいな火をみて、「清しこの夜」をうたい、サンタクロースがくることをお祈りした。

・サンタクロース登場

サンタクロースが登場すると、子どもたちの中から「ワァ!! サンタクロースだ。」と歓声があがった。低学年のA3などは、普段あまり感情を表情に表わさないのだが、この時はとても興奮して、「サンタクロースだ、サンタクロースだ。」といって大はしゃぎだった。サンタクロースのおじさんに、みんなごつくったツリーをほめてもらい、よくがんばったので、それぞれプレゼントをもらった。とてもうれしそうに、そしてはにかしうにお話をしたり、あくしゅをして、子どもたちは大満足だったようだ。

サンタクロースというものを、絵本やテレビで見て知っていても、実際に目の前で見るのは初めての子どもも多く、びっくりしている様子だった。子どもたちの中には、今までの学習でサンタクロースのイメージができてあがりつつあり、期待も大きかったぶん、本当にサンタクロースがきてくれた喜びと、驚きも大きかったようだ。また、サンタクロースのイメージのなかった子どもも、大きな袋をかついで、赤い服を着た、真白いひげのサンタクロースを見たことに

より、サンタクロースに対しての関心がでてきたようで、その後、家庭より、「テレビなどのサンタクロースをみて、学校でみたサンタクロースを思い出すのか、かっこうを真似てみたりして興味をもちはじめたようです。今までになかったことです。」などの報告も聞いている。

・おたのしみ会

先生たちがつくったクリスマスケーキを食べ、その後ツリーを囲んで楽しく歌をうたった。

④ クリスマス発表会を終えて

こうして、クリスマス発表会も、楽しい雰囲気の中で無事終わることができた。みんなでツリーをつくり、みんなで準備をし、みんなでとりくんだクリスマス発表会だった。

昨年までのクリスマス発表会をふりかえると、当日だけのおたのしみ会として、それはとれなりに終わってしまっていたが、今回ツリーの飾りつくりを合同学習にとり入れ、2週間の間子どもたちが一生懸命ツリーをつくりあげ、サンタクロースを心待ちにし、待つて待つて待ち望んだクリスマス発表会だった。待つ間の期待感も、当日の楽しさも、そして終わった後の充実感も、今までになく満ち足りたものではなかっただろうか。

発表会后、ツリーは23日まで飾られ、その後子どもたち全員で飾りをとりはずした。来年は、もっとも、とがんばって、きれいなツリーをつくらうと約束し、ツリーとお別れをした。飾りは、子どもたちに少しずつわけてもらって持ちかえらせ、今度は家のツリーに飾らうかということになった。家庭でのクリスマス会に、子どものつくった飾りを飾ってもらうよう、家庭と連絡を取り、協力をもとめた。このように、学校だけのものにとどまらず、家庭と協力し合って、子どもたちの経験を広げていくことも大切だと考える。

このとりくみをふりかえると、数々の反省点もあるが、この経験が子どもたちの心の中に、少しでも楽しい思い出となりのこってくれることができれば……と願っている。

(4) 反省と考察

クリスマス発表会には、計画の段階で学習発表会の反省をもとに十分な話し合いをし、計画を練った。そのこともあり、児童は作業に活発に参加し、自分一人のできる子がふえたり、何をすればよいか理解できる子がふえてきた。また、指導も教師の指導体制がうまくいき、教師の個性を生かした指導ができた。

① 効果を高めた点

- 合同学習の学習予定を使ったため、合同学習の回数が調節でき、クラス学習との関係もうまく結びつけやすかった。
- 個人目標と評価表を作成したため、次へのしっかりした見通しがもてた。
- 学習が軌道にのり、準備が充分にできだし、バックミュージック、サンタへの電話などいろいろなアイデアを出して学習が活発になった。
- 毎時、目的を明らかにし、次に何をするのかという期待をもたせること。
- 毎時、最後にはツリーに飾りつけをして喜び合った。
- 飾りを家に持って帰らせ、家でも楽しめたりして学習が家庭の中へ入っていった。

② 反省

- 準備の段階からもっと子供に参加させる方法はないか。
- チーフに負担がかかりやすい原因は何か。
- 評価が技能の中心となるようだ。もっと子供の表情、動き等について記録をとるべきだ。
- 毎時間ごとにもっと話し合いをすること。

以上、多くのよかった点ができるだけ問題点も明らかになり、また、反省のレベルも高いものになってきた。何と言ってもクリスマス発表会が楽しいものだったことの意義は大きいと思う。毎日のがんばりが当日の成功を生んだのだが、次の取り組みの時、児童の意欲となって現われてくると思う。

まとめとこれからの問題

「豊かな心をもち、たくましく行動する子」を育てるため、小学部では、「合同学習における経験を大切にした指導」という観点から実践した。

最初、合同学習を行っても合同学習の意識がなく、まだまだクラスを中心にした意識であった。また、各クラスで分担した仕事も単なる持ちよりの感さえあった。教師サイドも合同学習における担任外の子供達の扱いなど不慣れな点が目立ち、ゆとりをもった指導に遠かった。しかし、炊飯遠足→反省→学習発表会→反省→クリスマス発表会→反省と合同学習を行う中で、経験を大切にした学習（参加する喜び、意欲・・・）を積みあげていくうちに、子供達は互いに刺激を受けながら、学習に興味をもったり、仕事をしようとするなどの姿がみられた。また、单元ごとに反省することにより、教師も次单元の学習内容の検討、指導の手だて、役割などしっかり認識でき、指導にもゆとりがでてきた。本年度の研究のまとめとして、2月にゲーム大会の单元を予定しているが、合同学習と学級学習とのかかわりを明確にし、グループ分けの特色を生かせる方向にもっていきたい。また、1時間を大切に授業の積み重ねの中で、教師の確かな目を養い、評価を積極的に取り入れたい。

小学部では、テーマ実現のため、どのような指導のあり方とするかという一応の方向づけを見定めた。子供達が大部分を生活する学級集団と大きな集団とのおりなリズムの中で成長を促そうとするものであるが、集団が大きくなればなる程、個を大切にしなければならないことが痛感された。

次年度は、個の障害に合わせて、よりの確に集団とかかわらせるあり方を問題としたい。

経験を大切にすることとは、子供が見通しをもてるようになることと同時に、教師も子供に対して見通しがもてだし、子供と一体感ができる。この取り組みは、子供だけでなく教師にとっても大切なテーマであること、合同学習にしても教師の和ができ、それが子供に返っていったのではなかろうか。